

として理解できなくなります。試しに上の文を英語にすると、語順としてはほぼ一通りしか選べません。

There are people in Japan who believe that their English is useless unless they have good pronunciation.

語順の次に大事なのが強弱アクセントです。すべての単語にはアクセントがあります。アクセントは母音にあり、子音にはアクセントはありません。Presentのようにアクセントが違くと意味が違う単語もあるので、アクセントは必ず辞書で発音と一緒に確認します。辞書を引いたら意味と発音とアクセントと一緒に覚えるのがコツです。英語を話すときはまず語順とアクセントを重視します。大事な単語を強調して話すと英語らしいリズムになります。

英語らしい発音を覚えるにはフォニックスが役立ちます。フォニックスは英語の綴りと発音の関係を学ぶ方法で、アメリカの小学生が学校で必ず学ぶものです。日本でも英語塾などで小学生に教えると後で役に立ちます。英語はいろいろな言語を祖先に持つので、フォニックスが使える範囲は全体の約4分の3です。でも綴りと発音の関係を覚えれば75%の単語に応用できます。残りの25%はそのまま目と耳から覚

えます。漢字の音読みと訓読みを覚えるのに較べれば、フォニックスはいたって簡単です。子供用には良いDVD教材やアプリもあります。でも練習としては綴りに対応する発音を聴いて覚えるしか手がないので、大人は映画やテレビのDVDやBDを見て、英語字幕から綴りと発音の関係を覚えるのも良い方法です。[Wikipedia](#)によると英語の音素は母音系が20音、子音系が24音で合計44音あります。そのうえ英語のアルファベットは26文字しかないので、ひとつの文字に複数の音が存在します。例えば

母音: /a/ mat; /ae/ ape; /air/ square; /ar/ jar; /e/ peg; ...

子音: /b/ boy; /c//k/ cat, key; /ch/ chip; /d/ dog; ...

という具合です。

また単語の意味と発音と一緒に覚えると英文を読む時にも役立ちます。日本の中学英語ではあたかも漢文を訓読するかのよう英文をおしまいから訳します。これは日本の英語教育の最大の誤りです。英語は表音文字であるアルファベットからできています。英文を読むというのは、日本語で平仮名だけで書かれた文章を読むのと似ています。例えば「えいごはひょうおんもじである あるふあべっとから できています」